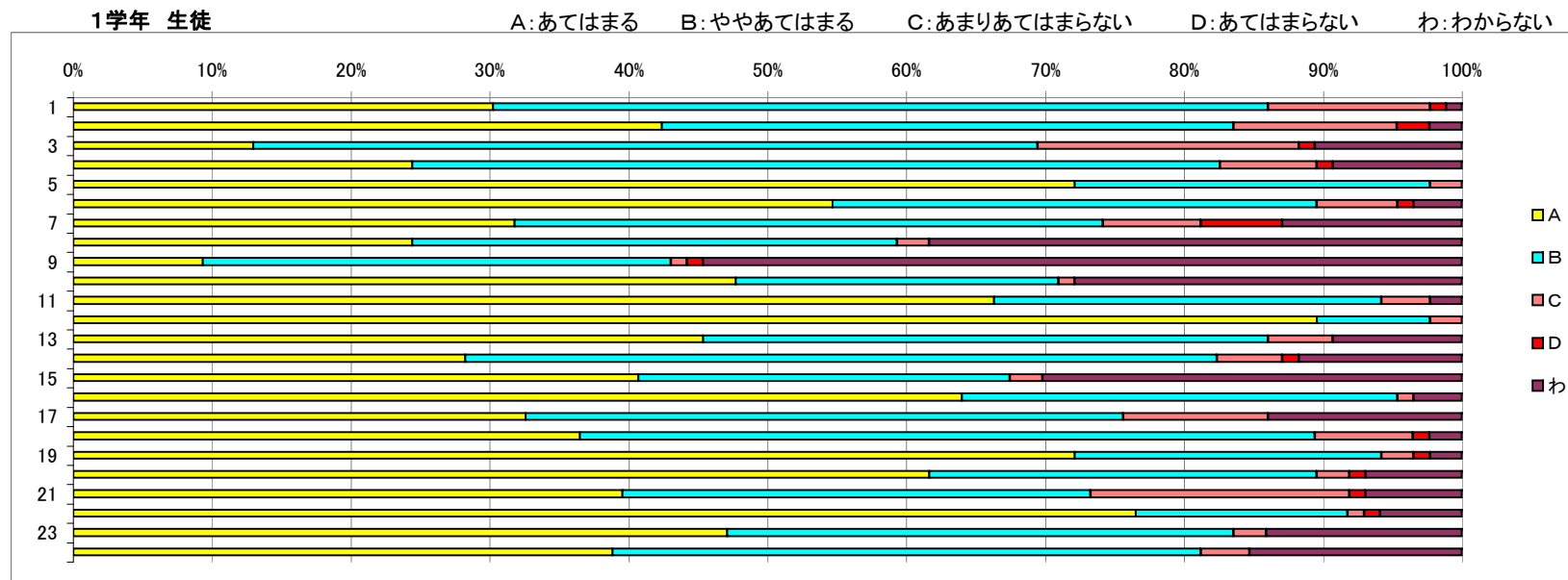


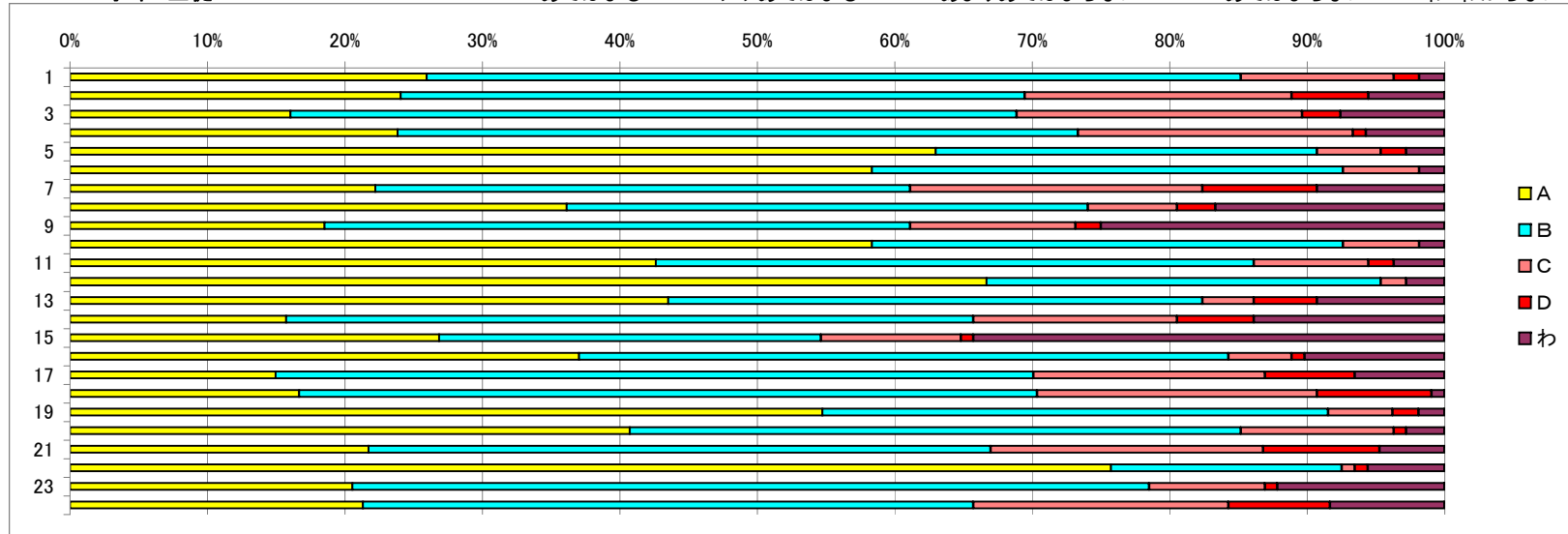
学校評価アンケート集計 生徒		A:あてはまる					B:ややあてはまる					C:あまりあてはまらない					D:あてはまらない					わ:わからない				
観点	No	質問項目	1学年					2学年					3学年					全学年								
			A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ				
1 学習指導	(1)	授業は、分かりやすく、基礎・基本が身に付いている。	30%	56%	12%	1%	1%	26%	59%	11%	2%	2%	31%	49%	13%	1%	6%	29%	55%	12%	1%	3%				
	(2)	通知表の評価は、納得できるものとなっている。	42%	41%	12%	2%	2%	24%	45%	19%	6%	6%	20%	45%	19%	4%	12%	28%	44%	17%	4%	7%				
	(3)	道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	13%	56%	19%	1%	11%	16%	53%	21%	3%	8%	25%	40%	13%	3%	19%	18%	49%	17%	2%	13%				
	(4)	総合的な学習の時間によって、課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	24%	58%	7%	1%	9%	24%	50%	20%	1%	6%	33%	43%	10%	3%	12%	27%	50%	13%	2%	9%				
2 生活指導	(5)	一中は、あいさつ等の基本的な生活習慣の定着に取り組んでいる。	72%	26%	2%	0%	0%	63%	28%	5%	2%	3%	53%	40%	3%	1%	3%	62%	32%	3%	1%	2%				
	(6)	一中は、安全についての指導や訓練などを十分行っている。	55%	35%	6%	1%	3%	58%	34%	6%	0%	2%	54%	35%	6%	2%	4%	56%	35%	6%	1%	3%				
	(7)	一中は、皆さんの悩み事が相談できるように配慮している。	32%	42%	7%	6%	13%	22%	39%	21%	8%	9%	31%	36%	9%	3%	22%	28%	39%	13%	6%	15%				
3 進路指導	(8)	一中は、進路について十分な情報提供をしている。	24%	35%	2%	0%	38%	36%	38%	6%	3%	17%	47%	43%	6%	0%	5%	36%	39%	5%	1%	19%				
	(9)	一中は、進路について親身になって相談のしてくれる。	9%	34%	1%	1%	55%	19%	43%	12%	2%	25%	43%	34%	11%	0%	13%	24%	37%	8%	1%	29%				
	(10)	一中は、職場体験などキャリア教育に積極的に取り組んでいる。	48%	23%	1%	0%	28%	58%	34%	6%	0%	2%	44%	39%	5%	0%	12%	50%	33%	4%	0%	13%				
4 特別活動	(11)	学校行事は、皆さんが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している。	66%	28%	3%	0%	2%	43%	44%	8%	2%	4%	53%	38%	8%	0%	2%	53%	37%	7%	1%	3%				
	(12)	セカンドスクールは、充実した体験活動になっている。	90%	8%	2%	0%	0%	67%	29%	2%	0%	3%	49%	36%	2%	0%	13%	67%	25%	2%	0%	6%				
	(13)	生徒会・委員会活動は、自主的・主体的活動になっている。	45%	41%	5%	0%	9%	44%	39%	4%	5%	9%	29%	40%	17%	4%	11%	39%	40%	9%	3%	10%				
5 学校運営	(14)	一中は、教育方針や教育の重点を分かりやすく伝えている。	28%	54%	5%	1%	12%	16%	50%	15%	6%	14%	29%	41%	11%	2%	17%	24%	48%	10%	3%	14%				
	(15)	一中は、校長先生を中心に教職員が協力し合っている。	41%	27%	2%	0%	30%	27%	28%	10%	1%	34%	36%	32%	1%	0%	32%	34%	29%	5%	0%	32%				
	(16)	先生方は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	64%	31%	1%	0%	3%	37%	47%	5%	1%	10%	43%	44%	3%	0%	9%	47%	42%	3%	0%	8%				
	(17)	一中は、皆さんに対してきちんと説明し、意見や要望に答えている。	33%	43%	10%	0%	14%	15%	55%	17%	7%	7%	23%	42%	14%	3%	17%	23%	47%	14%	3%	12%				
	(18)	学校環境は、いつも清潔で整備されている。	36%	53%	7%	1%	2%	17%	54%	20%	8%	1%	33%	50%	13%	1%	3%	28%	52%	14%	4%	2%				
6 地域連携	(19)	一中は、明るく活気がある。	72%	22%	2%	1%	2%	55%	37%	5%	2%	2%	51%	42%	3%	1%	3%	58%	34%	3%	1%	2%				
	(20)	一中フェスタによって、地域との連携が深まっている。	62%	28%	2%	1%	7%	41%	44%	11%	1%	3%	49%	38%	5%	1%	8%	50%	37%	6%	1%	6%				
	(21)	皆さんは、地域の活動や行事に協力している。	40%	34%	19%	1%	7%	22%	45%	20%	8%	5%	23%	28%	31%	7%	12%	27%	36%	23%	6%	8%				
7 その他	(22)	一中は、学校便りやホームページなどで学校の情報提供をしている。	76%	15%	1%	1%	6%	76%	17%	1%	1%	6%	61%	28%	3%	0%	8%	71%	20%	2%	1%	6%				
	(23)	先生方は、※③言語活動の充実を図るための各教科の指導に取り組んでいる。	47%	36%	2%	0%	14%	21%	58%	8%	1%	12%	24%	44%	6%	1%	25%	29%	47%	6%	1%	17%				
	(24)	先生方は、※④ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	39%	42%	4%	0%	15%	21%	44%	19%	7%	8%	16%	28%	25%	6%	25%	25%	38%	16%	5%	16%				

* C評価・D評価の否定的評価、「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては、網掛けで示した。



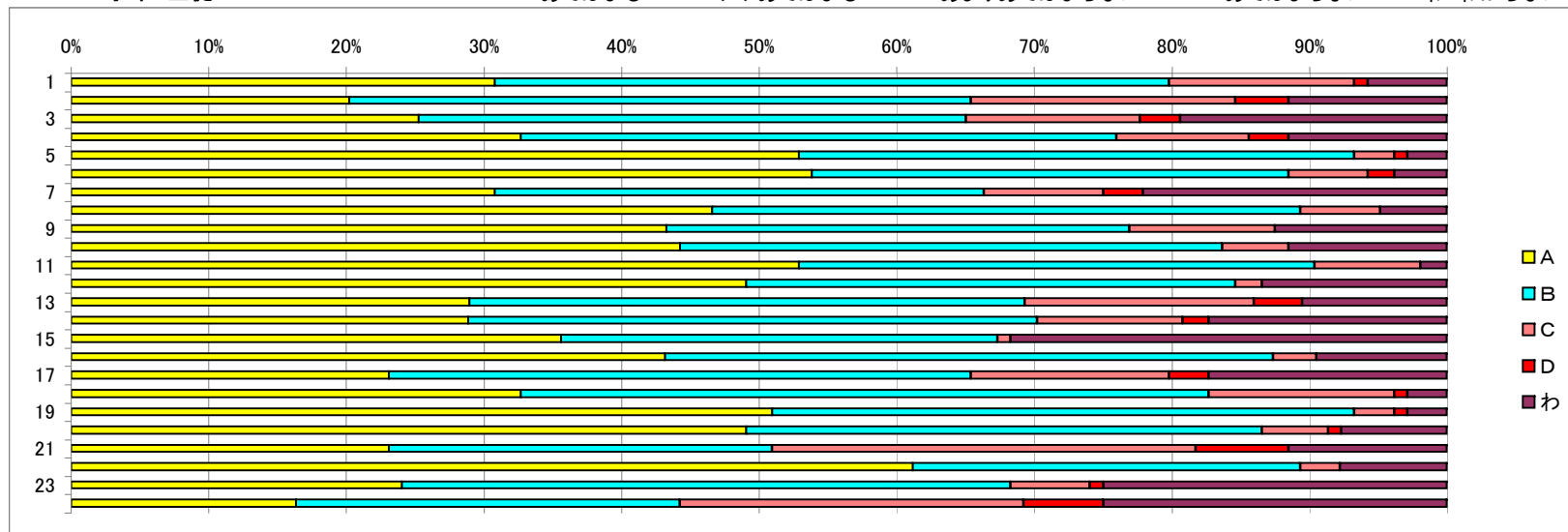
2学年 生徒

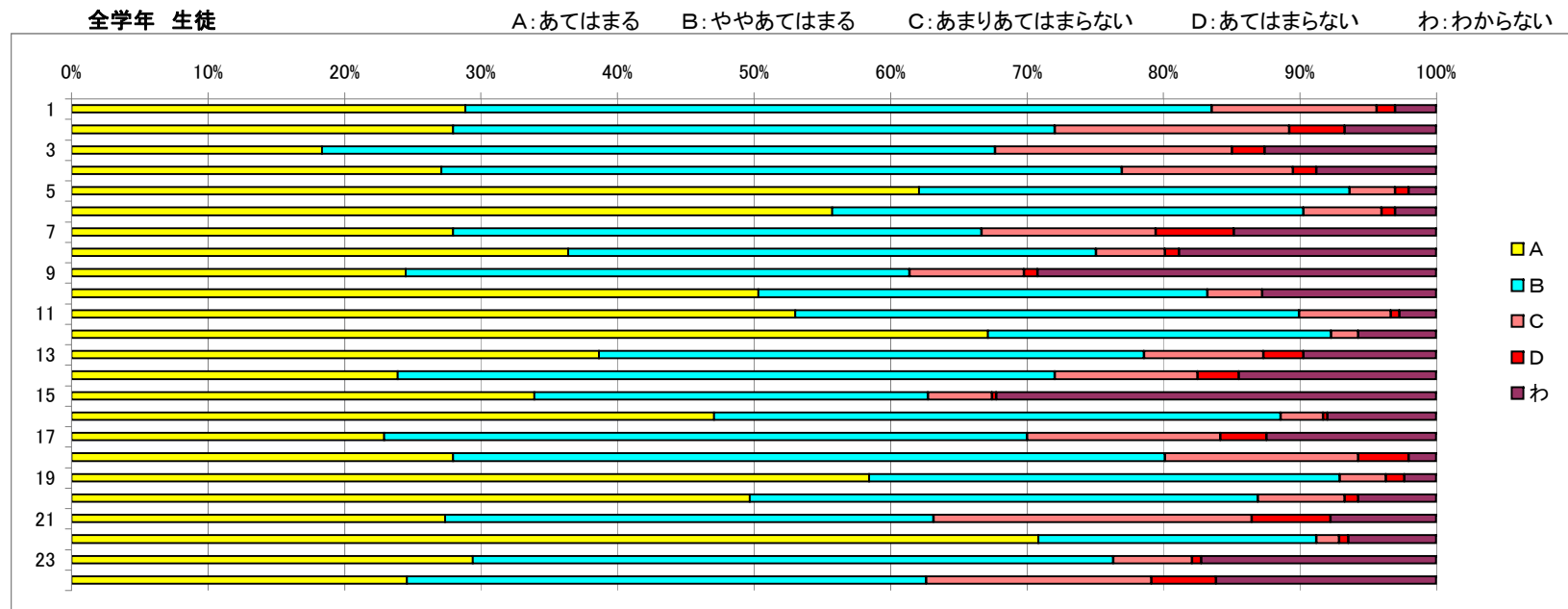
A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない



3学年 生徒

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない





考察

各観点においてほぼ肯定的評価であり、前年度と比較すると、あいさつ、安全指導、一中フェスタでは否定的な評価が減少している傾向にある。特に、あいさつ、安全指導、行事、セカンドスクール、活気などでは、高い評価を得ている。また、基礎・基本の定着の観点が上昇している。しかし、C評価・D評価を合計して30%を超える質問項目、「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては、改善の必要があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示すことにする。

項目	分析	改善策
(8)進路について十分な情報提供をしている。 (9)進路について親身になって相談にのってくれる。	1年生に「わからない」と答える生徒が(8)38%、(9)55%と高い。「進路＝進学」と考えている傾向が強く、まだ、進路に対する実感が伴わない結果だと考える。学年が上がるにつれて、「わからない」の数値は低くなっている。	・年度当初に進路指導計画を明確に周知し、進路＝進学ではなく、生徒一人一人の個性・適正・能力をさまざまな角度から発見させ、学年の発達段階に応じた、進路指導を行う。 ・教育相談時に、進路への意識づけを行う。
(15)校長先生を中心に教職員が協力し合っている。	教職員の協力体制(＝組織力)は、生徒にとっては日常生活の中で見えにくいことが、「わからない」という評価につながったと考えられる。しかし、2、3年生については、前年度と比較して減少している。	・校長の経営方針を具現化するために、全教職員が連携して教育活動に取り組んでいることを示す。例えば、校長講話を学級活動や道徳、各授業に引用して生徒に示すなどの指導上の工夫に努める。
(21)地域の活動や行事に協力している。	1年生はC評価・D評価を合わせて20%、2年生は28%である。3年生がC評価だけで30%を超えるのは、部活動や学習との兼ね合いで、第一地区の夏まつりや中央コミセン夏まつり・餅つき、吉西防災まつり等になかなか自主参加や協力ができなかったことも起因していると思われる。	・年度当初に各学年の生徒の活躍できる場を設定し、3年生は1年生のときから意図的、計画的に地域行事に協力できるようにする。
(24)ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	1年生はC評価・D評価を合わせて4%、2年生は26%である。3年生の31%という数値は、各教科指導等の活用頻度に起因していると思われる。	・教員がICTを効果的に活用できるよう研修を積み、意図的・計画的に活用していく必要がある。 ・ICT機器が不足している現状もあるので、今後、市教委に改善を求めていく。

学校評価アンケート集計 保護者

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない

観点	No	質問項目	1学年					2学年					3学年					全学年				
			A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ
1 学習指導	(1)	授業は、生徒にとって分かりやすく、基礎・基本が身に付いている。	16%	57%	12%	1%	14%	24%	47%	12%	3%	14%	27%	44%	14%	0%	14%	23%	49%	12%	1%	14%
	(2)	通知表の評価は、納得できるものとなっている。	28%	48%	16%	1%	7%	21%	56%	14%	6%	3%	17%	41%	26%	13%	3%	22%	49%	19%	7%	4%
	(3)	道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	16%	41%	12%	4%	28%	23%	44%	9%	7%	17%	17%	51%	11%	1%	19%	19%	45%	11%	4%	21%
	(4)	総合的な学習の時間によって、課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	19%	54%	3%	6%	18%	19%	53%	8%	3%	17%	20%	54%	13%	0%	13%	20%	54%	8%	3%	16%
2 生活指導	(5)	一中は、あいさつ等の基本的な生活習慣の定着に取り組んでいる。	52%	35%	9%	0%	4%	52%	36%	6%	0%	5%	40%	41%	11%	3%	4%	48%	38%	9%	1%	5%
	(6)	一中は、安全指導や避難訓練などを十分行っている。	41%	37%	4%	3%	15%	42%	44%	4%	3%	8%	37%	40%	9%	0%	14%	40%	40%	6%	2%	12%
	(7)	一中は、子供の悩み事が相談できるように配慮している。	30%	41%	9%	3%	17%	23%	47%	13%	4%	13%	27%	41%	11%	3%	17%	27%	43%	11%	3%	16%
3 進路指導	(8)	一中は、進路について十分な情報提供をしている。	14%	32%	10%	1%	42%	20%	33%	16%	3%	28%	27%	39%	19%	9%	7%	21%	35%	15%	4%	26%
	(9)	一中は、進路について親身になって相談のつてくれる。	17%	32%	7%	0%	43%	16%	22%	13%	4%	45%	27%	46%	17%	6%	4%	20%	33%	13%	3%	31%
4 特別活動	(10)	一中は、職場体験などキャリア教育に積極的に取り組んでいる。	43%	38%	4%	0%	14%	62%	32%	4%	0%	3%	50%	34%	9%	1%	6%	52%	34%	6%	0%	7%
	(11)	学校行事は、生徒が活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している。	58%	30%	6%	1%	4%	43%	49%	5%	1%	1%	49%	41%	6%	1%	3%	50%	40%	6%	1%	3%
	(12)	セカンドスクールは、充実した体験活動になっている。	83%	13%	1%	1%	1%	71%	22%	3%	1%	3%	61%	31%	3%	1%	3%	72%	22%	2%	1%	2%
5 学校運営	(13)	生徒会・委員会活動は、自主的・主体的活動になっている。	38%	30%	3%	1%	28%	32%	38%	3%	3%	25%	33%	44%	0%	3%	20%	34%	38%	2%	2%	24%
	(14)	一中は、教育方針や教育の重点を分かりやすく伝えている。	41%	46%	3%	1%	9%	40%	47%	6%	0%	6%	31%	54%	4%	4%	6%	38%	49%	5%	2%	7%
	(15)	一中は、校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	46%	39%	0%	1%	13%	45%	37%	3%	1%	14%	34%	41%	4%	3%	17%	42%	39%	2%	2%	15%
	(16)	先生方は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	54%	39%	0%	1%	6%	40%	44%	8%	1%	8%	40%	44%	3%	3%	10%	44%	42%	4%	2%	8%
	(17)	一中は、保護者に対してきちんと説明し、意見や要望に答えている。	46%	43%	6%	1%	4%	37%	47%	6%	4%	5%	36%	49%	7%	6%	3%	39%	46%	6%	4%	4%
	(18)	学校環境は、いつも清潔で整備されている。	47%	43%	4%	1%	4%	36%	47%	6%	3%	8%	37%	51%	4%	3%	4%	40%	47%	5%	2%	6%
	(19)	一中は、明るく活気がある。	41%	42%	9%	3%	6%	39%	51%	4%	0%	6%	46%	39%	7%	1%	7%	42%	44%	6%	1%	6%
6 地域連携	(20)	一中フェスタによって、地域との連携が深まっている。	45%	42%	4%	1%	7%	39%	49%	3%	0%	9%	43%	40%	7%	4%	6%	42%	44%	5%	2%	7%
	(21)	生徒は、地域の活動や行事に協力している。	41%	51%	3%	1%	4%	29%	43%	12%	0%	16%	24%	43%	16%	3%	14%	31%	46%	10%	1%	12%
7 その他	(22)	一中は、学校便りやホームページなどで学校の情報提供をしている。	75%	22%	0%	1%	1%	68%	27%	3%	0%	3%	70%	28%	0%	1%	1%	71%	26%	1%	1%	2%
	(23)	先生方は、※③言語活動の充実を図るための各教科の指導に取り組んでいる。	26%	41%	1%	0%	32%	25%	32%	6%	1%	35%	17%	53%	1%	1%	27%	23%	42%	3%	1%	31%
	(24)	先生方は、※④ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	26%	39%	1%	0%	33%	13%	32%	4%	0%	51%	13%	44%	7%	1%	34%	17%	38%	4%	0%	40%

回収率 80%

回収率 70%

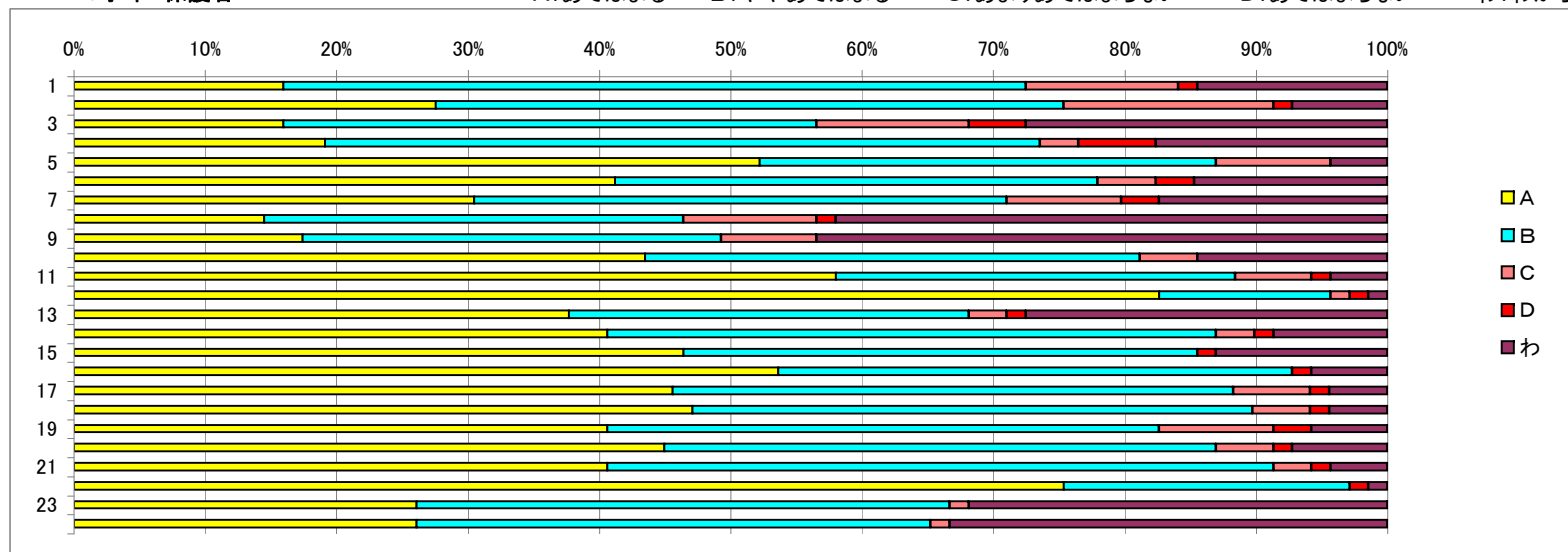
回収率 75%

回収率 75%

* C評価・D評価の否定的評価、「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては、網掛けで示した。

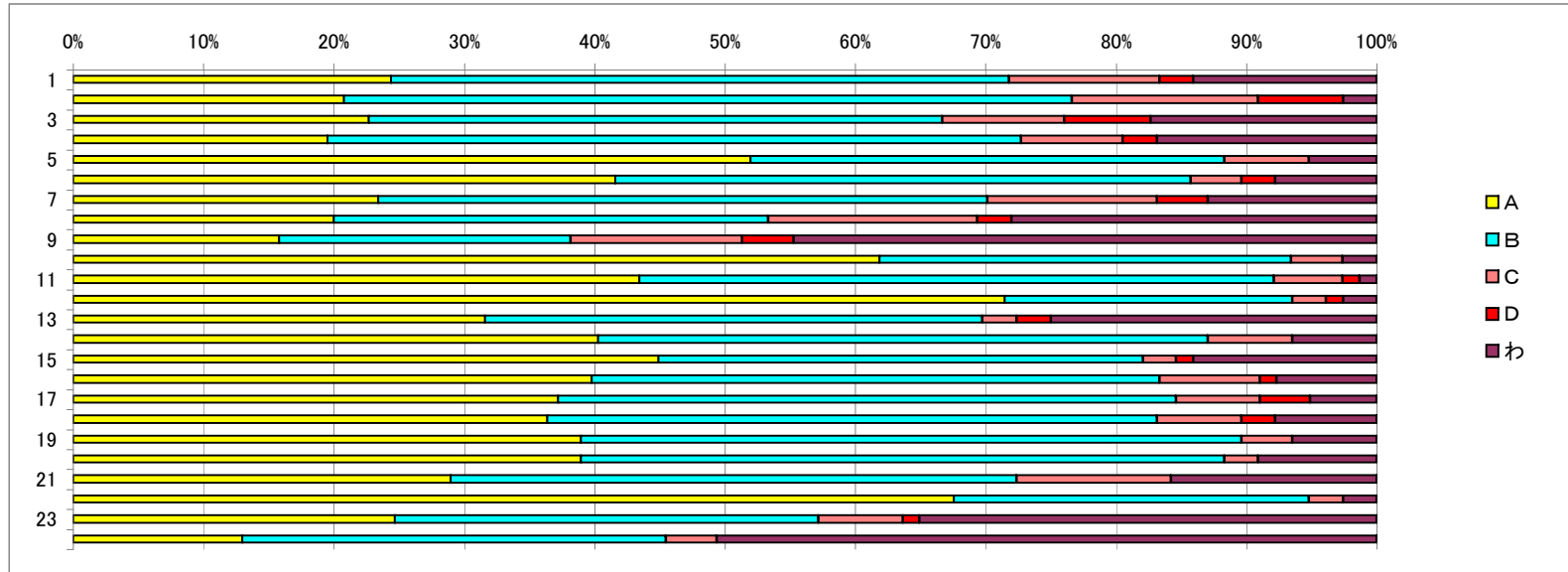
1学年 保護者

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない



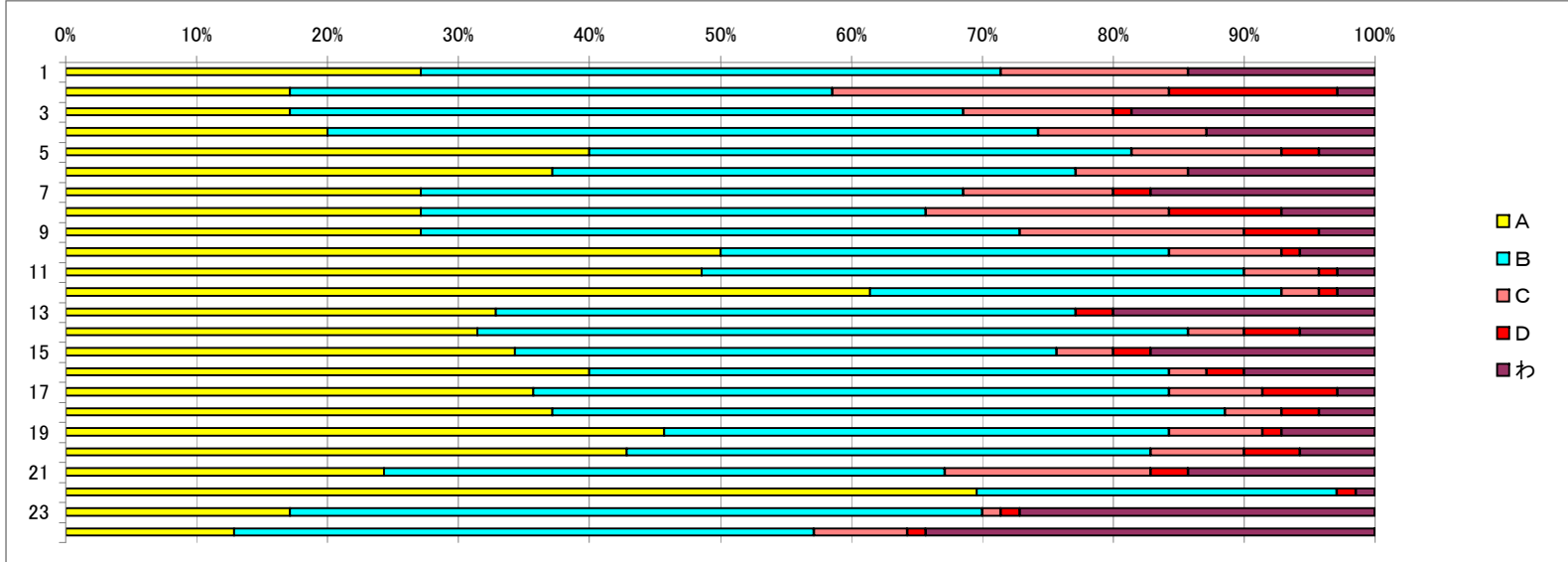
2学年 保護者

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない



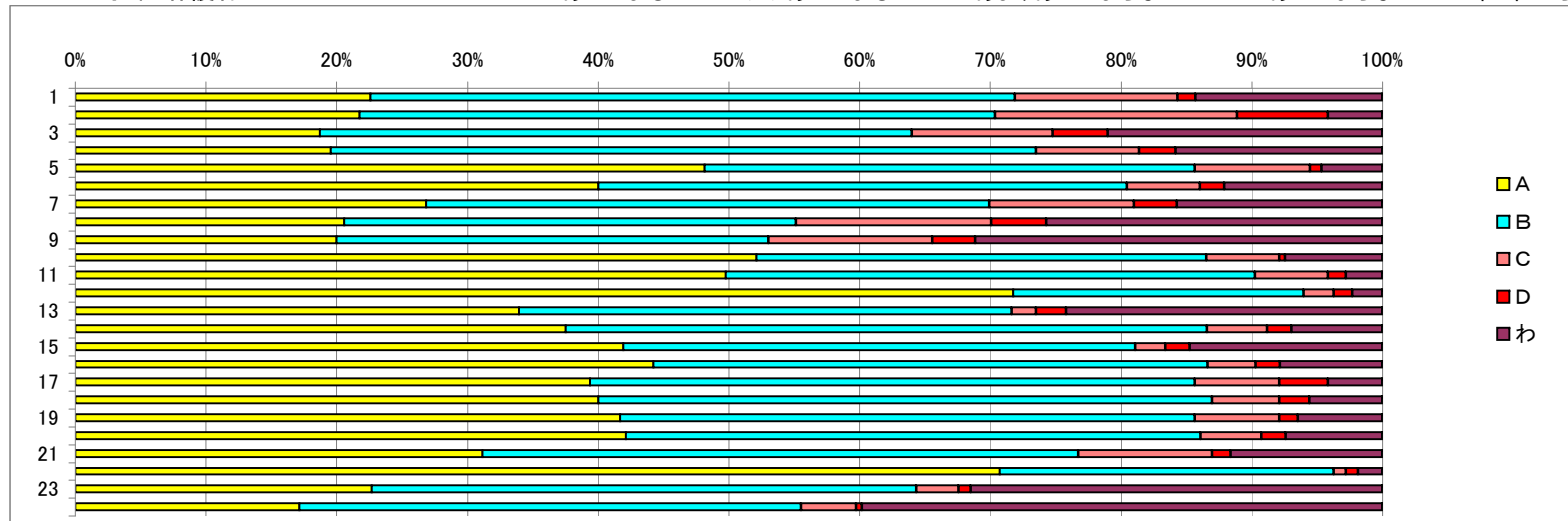
3学年 保護者

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない



全学年 保護者

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない わ:わからない



考察

各観点においてほぼ肯定的評価であり、前年度と比較すると、基礎・基本、教職員の協力体制、地域の活動や行事への協力では、否定的な評価が減少している傾向にある。特に、あいさつ、キャリア教育、特別活動、学校運営、学校便り・ホームページなどでは、高い評価を得ている。しかし、C評価・D評価を合計して30%を超える質問項目、「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては、改善の必要があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示すことにする。

項目	分析	改善策
(2) 通知表の評価は、納得できるものとなっている。	3年生で、C評価・D評価が39%と高く、昨年度の2年次の34%を上回っている。1年生は17%、2年生は20%であることから「評価・評定の方法」の説明をより丁寧に行っていく必要がある。また、教科ごとの説明も具体的に行う必要がある。	・前年度同様、「評価・評定の方法」を学期当初に発行し、各教科の評価方法・規準を明確にし、十分な説明をする。 ・保護者会、教育相談等で、評価に対する説明を丁寧に行う。
(8) 進路について十分な情報提供をしている。 (9) 進路について親身になって相談にのってくれる。	1年生に「わからない」と答える生徒が(8)42%、(9)43%と高い。また、2年生では、(9)45%と出ている。やはり生徒の評価と同様に、「進路＝進学」と考えている傾向が強いと考えられる。3年生の数値は低くなっている。	・年度当初に進路指導計画を明確にし、進路＝進学ではなく、生徒一人一人の個性・適正・能力をさまざまな角度から発見させ、学年の発達段階に応じた、進路指導を行う。 ・教育相談時に、進路への意識づけを行う。
(23) 言語活動の充実を図るための各教科指導に取り組んでいる。	保護者にとって言語活動がどのようなものか認識しにくい1年生は「わからない」の評価が32%、2年生は35%である。学校公開等の保護者に見える場面での言語活動の内容に起因していると思われる。	・学校公開等にどのような言語活動を意図的に取り入れているかを明確に示すことで保護者の理解を得る。また、教科指導だけでなく、道徳や総合的な学習の時間など、日頃の生徒の教育活動に計画的に言語活動を取り入れる等、各学年に応じた指導の工夫が必要である。
(24) ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	1年生は「わからない」の評価が33%、2年生は51%、3年生の34%である。学校公開等の保護者に見える場面での活用頻度に起因していると思われる。	・学校公開等を活用して、教科指導だけでなく、道徳や総合的な学習の時間などでの計画的な活用により改善できる。また、3年生は、ICTを活用したプレゼンテーションを行うなど、各学年に応じた指導の工夫が必要である。

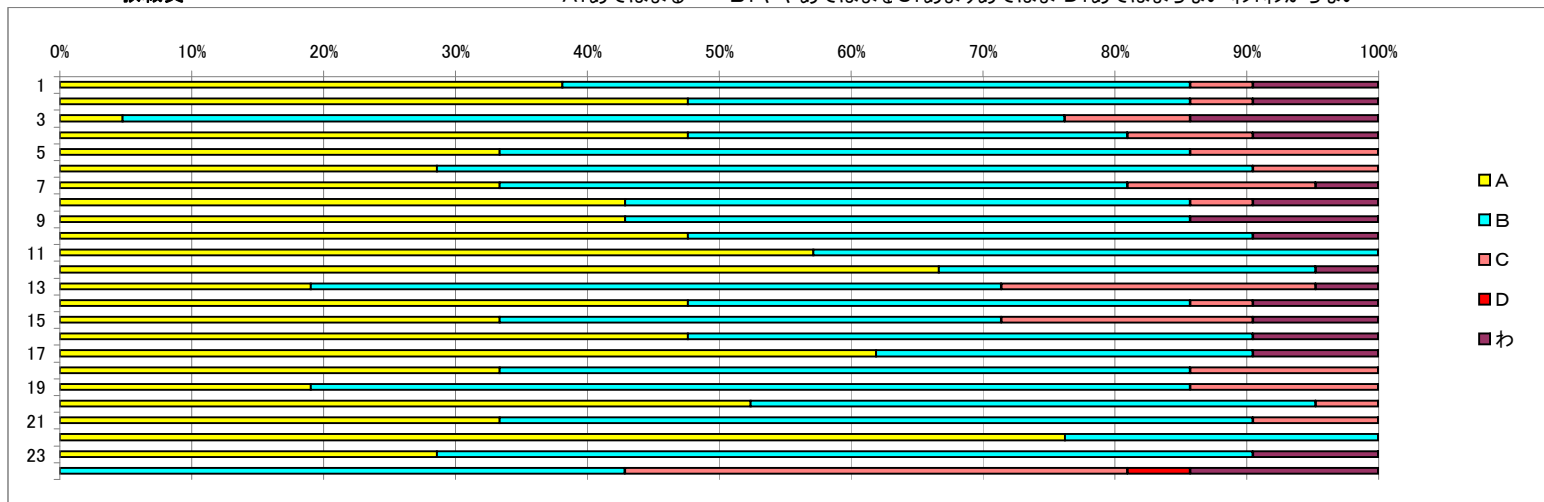
学校評価アンケート集計 教職員

観 点	No	評 価 項 目	教職員				
			A	B	C	D	わ
1 学習指導	(1)	授業は、生徒にとって分かりやすく基礎・基本が身に付いている。	38%	48%	5%	0%	10%
	(2)	生徒の学習評価は、適正である。	48%	38%	5%	0%	10%
	(3)	道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	5%	71%	10%	0%	14%
	(4)	生徒は、総合的な学習の時間によって、課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	48%	33%	10%	0%	10%
2 生活指導	(5)	一中は、あいさつ等の基本的な生活習慣を定着に取り組んでいる。	33%	52%	14%	0%	0%
	(6)	一中は、安全指導や避難訓練など、十分行っている。	29%	62%	10%	0%	0%
3 進路指導	(7)	一中は、生徒の悩み事が相談できるように配慮している。	33%	48%	14%	0%	5%
	(8)	一中は、進路について十分な情報提供をしている。	43%	43%	5%	0%	10%
	(9)	一中は、進路について親身になって相談にのっている。	43%	43%	0%	0%	14%
	(10)	一中は、職場体験などキャリア教育に積極的に取り組んでいる。	48%	43%	0%	0%	10%
4 特別活動	(11)	学校行事は、生徒が活躍する場面があり、内容が充実している。	57%	43%	0%	0%	0%
	(12)	セカンドスクールは、充実した体験活動になっている。	67%	29%	0%	0%	5%
	(13)	生徒会・委員会活動は、自主的・主体的活動になっている。	19%	52%	24%	0%	5%
5 学校運営	(14)	一中は、教育方針や教育の重点を分かりやすく伝えている。	48%	38%	5%	0%	10%
	(15)	一中は、校長を中心に教職員の協力体制ができている。	33%	38%	19%	0%	10%
	(16)	教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	48%	43%	0%	0%	10%
	(17)	一中は、生徒・保護者に対してきちんと説明し、意見や要望に答えている。	62%	29%	0%	0%	10%
	(18)	学校環境は、いつも清潔で整備されている。	33%	52%	14%	0%	0%
	(19)	一中は、明るく活気がある。	19%	67%	14%	0%	0%
	(20)	一中フエスタによって、地域との連携が深まっている。	52%	43%	5%	0%	0%
6 地域連携	(21)	生徒は、地域の活動や行事に協力している。	33%	57%	10%	0%	0%
	(22)	一中は、学校便りやホームページなどで学校の情報提供をしている。	76%	24%	0%	0%	0%
7 その他	(23)	教員は、 <u>①</u> 言語活動の充実を図るための各教科の指導に取り組んでいる。	29%	62%	0%	0%	10%
	(24)	教員は、 <u>②</u> ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	0%	43%	38%	5%	14%

* C評価・D評価の否定的評価、「わからない」の評価が20%を超える質問項目に関しては、網掛けで示した。

教職員

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはま D:あてはまらない わ:わからない



考察

各観点において、ほぼ肯定的評価がされている。特に、進路指導、特別活動、学校運営など高い評価を得ている。しかし、C評価が20%を超える質問項目に関しては、改善の余地があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示すことにする。

項目	分析	改善策
(13)生徒会・委員会活動は、自主的・主体的活動になっている。	生徒の生徒会・委員会活動への取り組みが、やや消極的であると見ている。このことは、生徒の自主性や主体性が不足し、教員の指示を待つ傾向が考えられる。	・生徒が主体的に考え、計画を立てるための一層の支援を行う。 ・生徒会を中心とした委員会活動の見直しをさせる。
(24)ICT機器を活用した指導に取り組んでいる。	ICT機器の本格的な環境整備は、夏休み中に実施されたので、2学期以降の活用場面の見通しが不十分であると考えられる。また、学校公開等に見える場面での活用頻度に起因していると思われる。	・教科や道徳、総合的な学習の時間等に活用場面を計画する。 ・ICT機器を活用した授業見学などを積極的に行い、ICT機器への理解を充実させるとともに、ICT機器活用の効果を実感することを通して活用することへの抵抗感をなくす。

全体考察

生徒・保護者の肯定的な評価結果が、前年度より高くなっている項目がみられる。しかし、生徒・保護者の評価結果と教職員との評価結果に差が出ている項目もある。それらの項目に対して、以下に分析と具体的な改善策について示すことにする。

観点・項目	分析	改善策
1 学習指導 (2) 評価	昨年度より生徒・保護者と教職員との差は小さくなっているが、評価に関しては、教科指導の信頼性とも関わってくるだけに慎重に捉えていきたい。教員は、評価基準に合わせて評価をしているので肯定的な結果が高い。しかし、生徒・保護者は、学習への取り組み方やテストの結果、努力などから判断しているため教員との差異が生じたと考えられる。	・授業毎の単元目標を明確にし、板書して、学習する内容を説明する。 ・前年度同様、「評価・評定の方法」を学期当初に発行し、各教科の評価方法・規程を明確にし、十分な説明をする。 ・保護者会、教育相談等で、評価に対する説明を丁寧に行う。
(3) 道徳教育	生徒はA評価・B評価を合わせて67%、保護者は64%、教職員が76%である。保護者、生徒と教職員の差も課題はあるが、昨年度の教職員のA評価・B評価を合わせた数値が95%であることを考えると、その差異に課題があると考えられる。昨年度の研究奨励校としての研究成果を生かすことで、さらに、道徳の授業を要とした道徳教育が可能である。	・昨年度の成果と課題を踏まえ、道徳教育推進教師と各学年の道徳担当者を中心とした道徳授業を展開する。 ・生徒の実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、各学年の道徳授業の情報提供や情報交換を行い、機能的な協力体制づくりに努める。
3 進路指導 (10) 情報提供 (9) 進路相談	生徒・保護者ともに「進路＝進学」と考えている傾向が強いが、学年が上がるにつれて、「わからない」の数値は低くなっている。しかし、教員は、常に「進路＝進学」ではないことを念頭に置いて進路指導を行っていることから生徒・保護者とのギャップがあると考えられる。	・アンケートの実施時期と実際に進路に関する学習を行う時期との関係が、学年の数値に出ている。年度当初に進路指導計画を明確にし、進路＝進学ではなく、生徒一人一人の個性・適正・能力をさまざまな角度から分析し、学年の発達段階に応じた進路指導をより一層行う。また、学年保護者会等で、進路に関する考え方等を丁寧に説明する。 ・教育相談時に、個別に進路への意識づけを行う。
6 地域連携 (21) 地域貢献	教職員の評価は高く、下位評価は0%である。1年生はC評価・D評価を合わせて20%、2年生は28%である。3年生がC評価だけで30%を超えるのは、部活動や学習との兼ね合いで、第一地区の夏まつりや中央コミセン夏まつり・餅つき、吉西防災まつり等になかなか自主参加や協力ができなかったことも起因していると思われる。	・年度当初に各学年の生徒の活躍できる場を設定し、3年生は1年生のときから意図的、計画的に地域行事に協力できるようにする。 ・生活指導部を中心として、年間計画をたて、担当者が生徒が参加・協力できる効果的な時期や内容、人数などを決める。
7 その他 (23) 言語活動の充実	1年生生徒は「わからない」の評価が14%、2年生生徒は12%である。1年保護者は「わからない」の評価が32%、2年保護者は35%である。言語活動とはどのようなものかという認識が、生徒・保護者に十分に伝わっていないことや生徒への言語活動を意識した授業展開、学校公開等の保護者に見える場面での言語活動の内容に起因していると思われる。	・日頃の生徒の活動に意識的に言語活動を取り入れる等、各学年に応じた生徒にわかる指導の工夫が必要である。また、学校公開等を活用して、教科指導だけでなく、道徳や総合的な学習の時間などでの計画的な活用場面により保護者の理解が得られる。